

短歌だより

作品提供 松前町文化協会



手を腫らし魚をさばく行商の
媼を囲みて話はずみぬ

西古泉 栗田智恵子

旧交会の電話は訃報あいつぎて
コートに衿立て夫は出かけぬ

北黒田 松野 静代

校庭のタイムカプセル知る人も
少なくなれど花ゆず木の下

筒井 永見 時子

花活けて睦月過ぎたりしつとりと
膚の艶めく備前の壺は

筒井 黒田 和子

四季の草たゆることなく地を覆ひ
休耕田の原野に還る

東古泉 森下 圭子

潮騒のリズム穏しき防波堤
とまる夕日にカメラの並ぶ

東古泉 早瀬 操

寒風のおさまる午後の犬が淵
名水汲む人等容器を両手に

中川原 山本 清子

遠目にも瀬戸の海原凧らしく
春霞む大橋を観る

中川原 加納 照子

干大豆ぱつと飛び去る番鳩
少しぐらいは許してやらむ

恵久美 池内 文俊

半生を和裁一筋に生きし掌よ
勲章のごと縫胝このる

恵久美 池内寿美子

久びさに出会ふ息子ら酌み交し
賑はふ茶の間更けて明るし

北川原 池内ミヨ子

松籟にかぶさる水音利根川の
奥の奥なる牧水の湯は

北川原 田中 朋枝

草田男の歌碑のかたへのわが生家
海沿ひの道にひそと古りゆく

浜 灘野 初子



編集後記

先日、所用で東宇和郡明浜町に行く機会があった。法華津トンネルの手前から、野福峠を経て町に入った。

野福峠には6、7年前に桜の花を観にグループで行ったことがある。話しには聞いていたが、道際の老木から咲いている桜の花のトンネルは見事なものであり充分堪能した。ところが、その花を観ようと繰りだした車の数は多く、せまい道路は離合を困難にし、あちこちで渋滞をして大変な思いをしたのを覚えている。

ところが、その道路があちらこちらで拡幅され、快適なドライブが可能になりつつあった。しかし、あの見事な桜の花のトンネルは再び観ることはできなかった。拡幅により伐採され、立木のまみち朽ち果てたのも沢山みかけた。残念な気持ちがあったが、救われたのはそのそばに若い木が育ち、花を咲かせていたことであつた。

思わぬところに桜の木を発見するのもこの季節です。